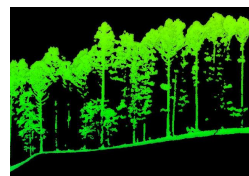


ヤマハ発動機による森林管理の取り組みのご紹介

ヤマハ発動機は、
持続的に人と森林が共生する未来をつくるため、
森林の計測と管理に貢献するサービス
「RINTO」を提供しています。



野生鳥獣による被害は、持続的な森林管理をする際の大きな課題の一つです。



近年、野生鳥獣による森林被害発生面積は減少傾向にあるものの、シカの生息数の増加及び生息域の拡大による森林の被害は依然として深刻な状況が続いています。

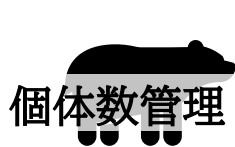


近年、クマによる人身被害は過去最悪の水準に達し、全国各地で深刻な課題となっています。生息域の拡大や人里への出没増加により、安全保障と共生のための対策強化が急務です。



野生鳥獣による農作物被害額は依然として高水準で推移しており、特にシカやイノシシによる被害が深刻です。被害防止のため、地域ぐるみの対策と生息域管理の強化が求められています。

森林と生物多様性の維持には野生鳥獣との共生が重要です。



個体数管理

野生鳥獣は天敵減少や環境変化で個体数が増加する傾向にあるため、適正な捕獲数を設定し計画的に個体数管理を行うことが重要です。



侵入防止

防護柵や電気柵、緩衝地帯の確保などの侵入防止策を推進することで鳥獣被害を減らし、地域の安全と生産性を高めていくことが可能です。



環境管理

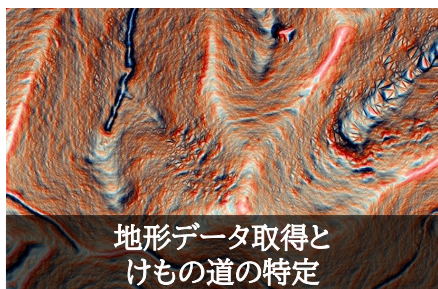
野生動物の生息環境を守り、人間活動との調和を促進する環境管理を行うことで動物の過度な生活圏侵入を防ぎ、生態系の健全化、生物多様性の改善に繋がります。



利用

安全なジビエ食材の流通による資源循環が地域経済の新たな収益源となり、地域の活性化に良い影響をもたらします。

ヤマハ発動機の製品・サービスを活用した取り組みを始めています。



地形データ取得と けもの道の特定

RINTOの微地形図は林道だけでなく、林業者が張り巡らす森林作業道や古道、獣道まで正確に把握可能です。森林施業に役立つほか、獣道を把握することで効率的な鳥獣捕獲計画に活用できます。



防護柵の運搬

林業従事者の負担軽減を目的に、防護柵資材を無人ヘリで運搬。1回で20～30kgの重量物を運び、急斜面での危険作業や重労働を大きく削減します。



地形を生かした MTBコースづくり

静岡県森町で開設されたMTBパーク「ミリオンペタルバイクパーク (Million Petal Bike Park)」は、山で安心して楽しめる場を目指し、コース整備と森林整備を両立。地域経済や自然共生に貢献し、他地域への文化拡大も視野に入れています。

「ともに未来の森を」つくるための共創パートナーになりませんか？

